

令和6年度第1回循環型社会推進会議 議事要旨

1 日 時 令和6年8月21日（水）14:00～16:00

2 場 所 城南衛生管理組合 事務所棟 大会議室

3 出席者

（委員）

郡嶋孝委員、北川秀樹委員、岸敬子委員、嵩繁行委員、原保彦委員、田中仁美委員、生駒智史委員、八木英夫委員、高月裕子委員、岩瀬剛二委員、高田重晴委員、中村麻伊子委員、福田佐世子委員、山下正則委員、谷口浩一委員、岡崎朋二委員、梶原哲郎委員、中村浩二委員、奥山英高委員

（事務局）

松村淳子管理者、野村賢治専任副管理者、山本晃治総務部長、川島修啓施設部長、橋本哲也総務部次長、五十嵐正和循環型社会推進課長、別所尚紀広報協働課長、川戸辰也施設課長、増田清孝循環型社会推進課課長補佐、福山さやか施設課課長補佐、田邊知世循環型社会推進課主事

4 議事次第

1 開会

2 管理者あいさつ

3 議事

（1）委員長及び副委員長の選出について

（2）【動画】城南衛生管理組合における廃棄物処理の現状について

（3）ごみ減量施策について

（4）その他の報告事項

4 その他

5 閉会

5 会議概要

1) 会議の開催にあたり、松村管理者から挨拶がなされた。

本日、第1回になります循環型社会推進会議を開催させていただきましたところ、大変お暑い中にもかかわらずご出席をいただきましてありがとうございます。

城南衛生管理組合は、宇治市、城陽市、八幡市、久御山町、宇治田原町、それから井手町、この構成6市町のし尿とごみ、それら进行处理する施設、いわゆる一部事務組合として成り立っているものでございます。

環境問題であるとか、温暖化であるとかといろいろ言われている状況の中で、3

R、リデュース、リユース、リサイクル、これを柱として私ども、取組を進めてまいりました。

温暖化が進んでいく中で、城南衛生管理組合としてどうしていくかといろいろ考える中で、住民の方々にリサイクルについて考える機会を、あるいはリユースについて考える機会をとという形で取組を進めるため、環境ふれあいひろばとしてこの新たな事務所棟に集約いたしまして、会議のベースになります循環型社会というのを進めていきたい、こういう思いに至ったところでございます。

構成6市町の人口規模としては35万人、年間約9万トンのごみが出ます。3Rだけではなくて、よりそれを進めるためにはどうしていくのがいいのか、今回、この新たな事務所棟で循環型社会推進会議を開催させていただくこととなりました。

次代を担う子どもたち、またさらなるその次の世代に対しても引き継いでいけるようなものを私どもとして検討していけたらなと思っております。そういう意味では大変難しいところをお願いするのかもしれませんが、皆さん方の本当にいろんな状況というのを加味しながらご議論いただけたら大変ありがたいと思っておりますので、どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

2) 委員の互選により、郡嶋委員が委員長、北川委員が副委員長に選出された。

3) 事務局から、議事(2)【動画】城南衛生管理組合における廃棄物処理の現状について、(3)ごみ減量施策、(4)その他の報告事項についての説明が行われた。

4) 議事(2)～(4)についての主な意見は、次のとおり。

- ・紙や段ボールのリサイクルについて、自治会での回収が減っていると思う。
- ・住民への周知方法が重要。紙ごみについても、(リサイクル)意識の無い方はごみとして捨ててしまう。例えば、大変だとは思いますが可燃ごみに紙ごみが入っていれば回収しないという方法もあるのではないかと。徹底して取り組まなければ、意識のある人だけが分別に協力して、意識の無い人は捨ててしまうというのはやめないといけない。行動変容を求めることがとても重要。
- ・封筒についても、一般家庭では再利用はしていない。切り開いて古紙回収に出している。
- ・アムステルダムにおける先進事例を紹介いただいたが、本当に理想的な施策であれば、「目指せアムステルダム」と目標を掲げ、何をどうすればそうなるのか考えるのが近道ではないか。

→日本ではごみのリサイクルは自分事。アムステルダムはみんな事。みんなでやれば法律が変わるなど世の中が変わっていく。まずは自分が変わって、それが広がってみんな事になっていくというのがヨーロッパにおける循環型社会

の考え方。

- ・ 広報のやり方を考えるべき。エコネット城南についても広く認識されていないのではないか。例えば市町広報と一体化するなど考えてみては。できれば参加型のやり取りが理想。
- ・ 韓国のソウルではリチウムイオン電池がごみに混入して発火することなどないと聞く。その理由は（可燃ごみ）ごみ袋が 20 リットル 55 円程度と大変高く、誰もリサイクル可能なごみを捨てないからである。生ごみのたい肥化にも注力されている。日本でも、経済的手法、規制的手法をある程度強化する必要があるのではないか。
- ・ ごみ袋の有料化については、実施を推進する意見と実施しても家庭の負担になってしまうという意見に分かれる。京都市のごみ量が少ないことを考えると、一定導入すべきではないかとも考えられる。
- ・ 以前からレジ袋削減の調査をしていたが、当時のマイバック持参率は低かったが、レジ袋有料化をきっかけにしてマイバックの持参が急に増加した。有料化というのは大きな効果が得られる。
- ・ 将来世代という観点から、幼稚園児に対しごみ分別を教えているが、喜んで分別に取り組んでくれる。このような取組みは継続していきたい。

【構成市町委員意見】

- ・ 古紙回収の問題は、自治会等に協力を依頼したりスーパー等の回収拠点の案内等をしてきた。市政だより等周知の手法を活用し、イラストを用いたわかりやすいチラシを作成するなど、なるべく早く古紙回収についての周知啓発を図っていきたい。
- ・ 古紙回収は自治会任せであるのが実態。最近では自治会未加入者も増えてきており、対応が必要と考えている。
- ・ 古紙回収については自治会に任せて実施してもらっており、報奨金も交付している。周知についても広報紙等一般的な媒体による内容となっている。
- ・ 古紙回収はPTAや子供会で実施しているが、コロナ禍を経て活動を停止したケースが多く、現在も活動再開されていない団体も多く、回収量が減っている。
- ・ 生ごみ処理機の補助については一定申請があり、処理機のレンタル等により体験してもらうことも実施している。
- ・ 生ごみの水切りについて、広報などで様々な周知に取り組んでいるが、住民まで届かないと感じることも多く、頂いたご意見を踏まえて取り組んでいきたい。

5) 今後の予定について

- ・ 11 月頃、高校生との意見交換の場を設ける予定（事務局対応）としており、その結果について第 2 回循環型社会推進会議において報告予定
- ・ 12 月中に第 2 回循環型社会推進会議を開催予定

- ・ 3 月中に第 3 回循環型社会推進会議を開催し、提言取りまとめ予定